

てい がく ねん
**低学年も
 チャレンジ!**

Q1

今年からグループはレモンを使った飲み物の試験販売を始めています。商品をアピールするロゴマークをデザインしてみてください。

浅口市の農業グループが、耕作放棄地を活用したレモンの栽培に力を入れています。記事を読んで質問に答えましょう。

Q2

現在は会員が約900本のレモンの木を栽培しています。当初と比べて木の数は何倍に増えましたか。計算して答えてみましょう。

Q3

グループの活動を浅口市も後押ししています。4月から始めたことは何ですか。最後の段落から答えてみよう。

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。

三ツ山レモン特産に

応本会長（右）ら浅口特産果樹研究会のメンバーが特産化を進めているレモン畑。浅口市寄島町



浅口

農業グループ推進

浅口市の農業グループ「浅口特産果樹研究会」が、同市寄島町でレモン栽培に力を入れている。耕作放棄地の解消を目的に2018年から苗木を植え始め、畑は10倍以上の規模に拡大した。今年から飲み物の試験販売も始め、「浅口市よりしま三ツ山レモン」として特産化を進める。（松山慎二）

飲み物の試験販売開始

浅口マルシェで初めて販売したレモンスカッシュ



同町では海沿いの温暖な気候を生かし、県が整備した畑地かんがい施設でミカン栽培が盛んに行われていたが、農家の高齢化や担い手不足などで生産量が減少。耕作放棄地が増える中、需要と付加価値の高いレモンに注目した。15坪の畑に50本の苗木を植えたのを皮切りに、現在

は会員15人が約200坪で約900本を栽培。市特産のカキの殻を肥料に使うなど地域資源を有効利用する。最大約200坪と一般のレモン（100〜120坪）より大きく、香りが強いのが特徴で、今シーズンは4万個（4・8坪）の収穫を見込む。 成木が増えたことから加工品の研究も進め、同会の応本会長（51）「同所」が18日に市内で開かれた「浅口マルシェ」で収穫したばかりの実を使ったレモンードとレモンスカッシュを初めて販売した。今後も地元イベントなどに合わせて売り込む予定。 4月から苗木や肥料、土の購入費を助成するなど市も活動を後押しする。ブランド名には市名勝・三ツ山を取り入れ、応本会長は「レモンはカキと相性抜群。販路開拓で知名度を上げるとともにメンバーを増やし、市を代表する果物に成長させたい」と意気込む。

過去の問題は
 こちらから▶▶

